

駅伝女子

26日・京都

大曲

(3年ぶり
7度目)

全国で輝け

大舞台に挑む本県高校チーム

④



さきがけ動画



陸橋でのロードワークに励む大曲の選手＝大仙市大曲

新チームになってから「(全国大会の)都大路を走ろう」と日頃から声を掛け合って練習に打ち込んできた。県予選は昨年3位、一昨年は2位と惜しくも頂点を逃したが、今

年は念願の全国大会への切符をつかんだ。吉川真央主将(3年)は「その悔しさはずっと忘れずにいた」と言う。3年前、大曲は7年ぶりに県予選で優勝し全国大会へ出場。そのレースを見ていた吉

川は「地元でこんな走りをする人たちがいるんだ」と憧れる人たちがいるんだと憧れ、大曲へ入学を決意した。今度の全国大会では、その時の1時間13分37秒を上回ることが目標だ。

今年は1年生5人が入部

し、小澤裕子監督は「新しい風が吹いた」と喜ぶ。明るく元気な新人が士気を上げた。中でも、菅原萼波がチームの主力となり、県予選では1区を任せられるまでに成長した。不安が大きかったとい

坂道練習で走力磨く

区	氏名	出身中	県予選記録
1	菅原 萼波①	大曲	20分26秒(1区)
2	◎吉川 真央③	大曲	13分45秒(2区)
3	原 稚捺③	仙北	10分41秒(3区)
4	柏谷 星来②	西明寺	10分31秒(4区)
5	伊藤 惟祈③	大曲郷	18分55秒(5区)
補欠	田口 楠々②	大曲	
補欠	田村 翠姫②	仙北	
補欠	中野 絢心①	大曲南	

(オーダーは予想。丸数字は学年、◎は主将)



う菅原は大役を果たし、自信を深めた様子。大舞台に向け「先輩たちのために流れを持ってきたい」と意欲を語る。チームはグラウンドでの練習よりもロードワークで鍛えることが多く、傾斜のある陸橋が定番のコース。小澤監督は「走るのは苦しいが、アツブダウンこそ駅伝の面白いところ」と実践的な走力を身に付けられるように指導している。

平たんな大湯村ソーラースポーツラインで行われた県予選は、坂道練習の成果が出せないかと思われたが、時折吹く向かい風にもペースを落とさず走り抜いた。吉川は「練習のおかげで逆境に負けない走りができた」と手応えを口にする。

全国大会では厳しい戦いが予想される。それでも小澤監督は「全国の相手と走れるのは、それだけでもいい経験。楽しく、自分たちの実力を存分に出してほしい」と期待を込めた。

(鎌田秀平)